

高田南原遺跡は、古墳時代を主とする遺跡です。足柄平野の酒匂川左岸にあたる標高 11m の低湿地遺跡に位置するため、地下水の影響などで様々な遺物が良好な状態で残されていました。青銅製品（銅鏡・銅釧）は珍しく、神奈川県内でも特筆される出土遺物です。

鍬や田下駄などの木製品も良好な残存状態で多数認められました。鍬は3点ほど見つかかり、アカガシなど堅い木材で、田下駄や杭などの多くは腐りにくいスギが用いられていました。今回の調査により古墳時代の用水路と考えられる溝や農具などが発見され、当時の生活を探る具体的な手がかりを多数得ることができました。

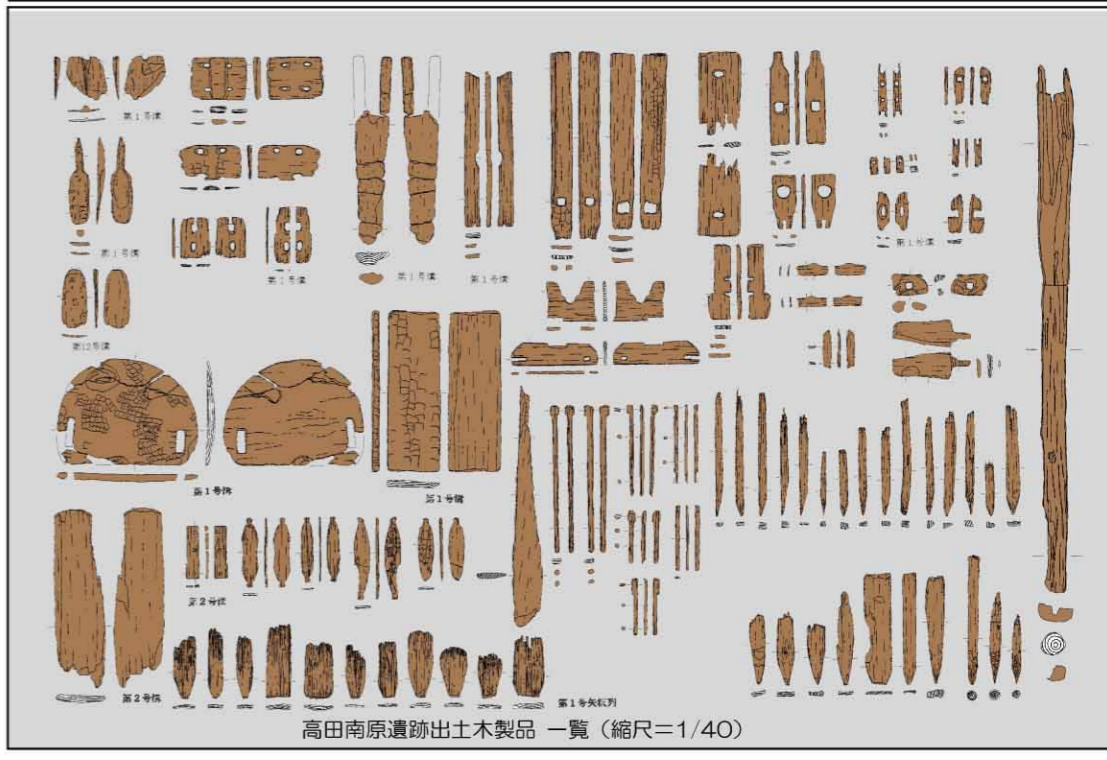
◇珠文鏡（しゅもんきょう）
内側の区画内に珠文と呼ぶ小円点を数多く並べた文様を特徴とする鏡。

◇倣製鏡（ほうせいきょう）
海外で製作され日本に移入された鏡である舶載鏡（はくさいきょう）を模倣して作った鏡で、様々な鏡式がある。舶載鏡に比べて材質や仕上がりが悪く、文様表現が不明瞭である場合が多い。

◇銅釧（どうくしろ）
釧は腕輪のことで、青銅製の腕輪で、腕輪はもともと南海産の貝で作られていた。

◇銅鍬（どうせく）
青銅製の矢じり。弥生～古墳時代前期に多く、古墳中期に鉄鍬と交替する。

◇方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）
弥生～古墳時代前期の墓。低墳丘の四方を溝で囲む。遺体は墳丘の中央に埋葬した。



①銅鏡 鏡式 珠文鏡 時期 古墳時代前期 特徴 古墳時代の小型倣製鏡と呼ばれる径 81mm の銅鏡です。小田原市域では永塚下の畑遺跡に次いで2例目の出土です。
古墳時代の銅鏡は、古墳の副葬品として墳墓から出土する場合と竪穴建物や遺構外出土など副葬品でない場合があります、今回は後者の事例です。出土地点は調査区の低位面にあたり、当時は低湿地でした。鏡はこの場所またはこの周辺での廃棄・遺棄や水辺に関わる祭祀を行っていたと考えられます。

②X線写真 X線で撮影すると、肉眼では観察できない文様や内部の構造も把握できます。

③銅鏡の鈕 この銅鏡には鈕と呼ばれる中央の突起部に樹皮状のひものようなものが巻き付けられており、当時の使用法を探る手がかりが残されている希少なものです。

④銅釧 時期 弥生時代後期 特徴 墳墓などに埋葬された人骨には複数装着している事例があります。本遺跡では銅鏡と同様に墳墓からの出土ではないことが特徴で、鏡と同じように低湿地に廃棄・遺棄されたものであると考えられます。この銅釧は約 1/4 を欠損し、つぶれたように歪んでいます。

⑤勾玉（滑石製）長さ 43mm ⑥白玉（滑石製）径 8.9mm ⑦刀子（鉄製の小刀）長さ 160mm
⑤～⑦は古墳時代後期の第2号溝から出土しました。

